

## 「駅西銀座」を歩く

開発ラッシュに沸く名駅だが、東と西では様相がかなり違う。新幹線口から大きな道を渡ると、「駅西銀座」通りが見えてくる。まっすぐ行くと中村区役所のあたりに出る。日曜の午前というのに、店はほとんど閉まっており、空き店舗が目立ち、まさに「シャッター通り」だ。超高層ビル街や地下街の賑わいとは対照的だ。夜に歩いた時の方が、まだ活気があった。

「駅西銀座」が賑わっていた頃が知りたいものだ。

「駅西」というと、幼い時のこと



をかすかに思い出す。病弱であり、母に連れられて駅近くある「鉄道病院」によく通ったという。バラック小屋や闇市のような戦後の「風景」がすこしだけ記憶に残っている。講義で使っている『映像で綴る名古屋の100年』でも、1959年に駅西都市改造事務所が設置され、新幹線着工に向けて住民移転が進められる場面が出てくる。

幼い頃のことを考えながら駅を見ると、超高層のビル群がまじかに迫ってくる。駅に入ると、列車に乗り降り



する人や待ち合わせ客で一杯であった。とくに若い人の待ち合わせ場所「金時計」あたりは、「駅西銀座」と対照的に人であふれかえり、まさに都会の雑踏の感じであった。

(2008年11月7日 記)